

留学生の日本語学習をサポートする SA (Student Assistant) に関する実践報告

大江淳子

1. はじめに

学習院大学外国語教育研究センターでは、留学生を対象とした日本語クラスが2012年度現在、初級・中級・上級それぞれ4コマずつ計12コマ開講されている。留学生はプレースメントテストを受け、レベルに合う4コマ～6コマを履修している。日本留学試験や外国人入学試験を経て入学した留学生は一定の日本語能力を有するが、海外の協定校から来る留学生の場合（以下、「協定留学生」）は、出身大学の日本語教育カリキュラムなどにより、レベル差、技能による差が顕著にみられる。日本語クラスは少人数クラスとはいえ、このレベル差の問題を授業内でどう解決していくかが課題であった。

この課題に対する一つの対応策として2008年にTA (Teaching Assistant、以下「TA」)・チューター制度が導入された。TAに関しては2008年度時点で大学の規程があり、大学の規程通りに運用され、チューターに関しては学部や部局により役割や運用方法が異なっていたため、外国語教育研究センターで運用方法や活動範囲などを検討して「外国語教育研究センターのチューターに関する内規」が制定され、運用された。

2009年度には大学でSA (Student Assistant)規程が制定され、これに伴い、大学のSA規程¹に準ずる形で、外国語教育研究センターでも学年別にSAとチューターとに名称が変更された。その後、2010年度には、SAが授業内活動、チューターが授業外活動を行うと改められ、2011年度には名称を日本語SAに統一し、授業内外の活動を担うものとして現在に至る。2012年度は8名の留学

¹ SAは初年次導入教育の拡充を図ることを目的として補助業務を行うこと、従って3年次又は4年次学生が携われると定められた。

生と、25名のSAが参加している。

本稿では、まず学習院大学外国語教育研究センターで運用しているSA制度について説明し、筆者の担当する日本語クラスでのSAとの連携を実践報告を通して、今後の改善点についてまとめる。

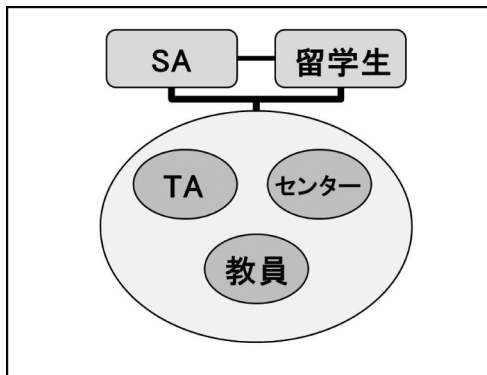
2. SA制度について

SAとはStudent Assistantの略で、留学生の日本語学習をサポートする学生のことである。SAもTAも大学から報酬を受け取る。留学生は希望すれば1回60分のSAレッスンを26回まで受けられることになっている。

2.1. SA、TA、外国語教育研究センター、担当教員について

後述する4者（SA、TA、外国語教育研究センター、担当教員）と留学生は現在【図1】のような関係であると考えられる。

【図1】留学生と4者（図中の「センター」は外国語教育研究センター）の関係



4者がそれぞれの役割を果たし、常に協力できる関係にあることがSA制度を運用するうえで非常に重要である。これは万が一、何かSA活動でトラブルがあった場合に、留学生やSAが誰に話しやすいと思っているかが未知数であることや、SAの質問内容によっては答える権限を誰が有しているかなど、TA

や担当教員だけでは即断できない部分があるためである。

2.1.1 SA (Student Assistant)

SA は留学生の日本語学習をサポートする学生という位置付けのため、ある程度の専門知識を持っていることが採用の条件とされている。従って、基本的には文学部日本語日本文学科日本語教育専攻の学生を対象にした制度であるが、他学部他学科の学生でも日本語教育系科目を履修し、該当科目の教員の推薦が得られれば登録が可能である。また、日本語学習者も、先輩学習者として留学生に良い影響があると考えられる場合には登録が可能である。²

SA の活動には、日本語の授業時間内の活動 (以下、「クラス内活動」) と、留学生と 1 対 1 で行う授業時間外の活動 (以下、「SA レッスン」) がある。どちらの活動を行った場合も、活動後に A4 サイズ 1 枚程度の報告書 (以下、「SA 活動日誌」) を提出する。それとは別に学期末には、その学期の活動を振り返り、何を行ったかを報告書として A4 サイズ 1 枚程度にまとめて提出する。

2.1.2 TA (Teaching Assistant)

TA は、人文科学研究科日本語日本文学専攻の博士前期課程の院生で、授業補助を行う。また、SA 募集の窓口となり、外国語教育センターと協力して留学生と SA のペア決め、SA への各種連絡や顔合わせ会や反省会などを行う。活動後には A4 サイズ 1 枚程度の報告書 (以下、「TA 活動日誌」) を、学期末にも SA と同様に A4 サイズ 1 枚程度の報告書を提出する。

2.1.3 外国語教育研究センターの副手

外国語教育研究センターの副手は、ペアが決まる前の留学生への各種連絡、留学生の活動希望時間の取りまとめ、SA レッスンの活動場所としているコミュニケーションルームの手配、事務手続きやそれに関する SA からの質問、留学生や SA からの要望への対応等を行う。

2 Thomson, Chihiro Kinoshita は先輩学習者を Junior Teacher として積極的に登用している。

2.1.4 担当教員

担当教員はSA活動が適切に行われるように指示を出す。その後指示が活動に反映されているかを確認するために、SA活動日誌に目を通し、適切なコメントをつけてSAにフィードバックし、必要に応じてサポートする。

2.2. SA制度運用の1年間の流れ

【表2】日本語SA運用の1年間の流れ

月	活動内容（主たる活動者）
4	SA 募集 <ul style="list-style-type: none"> ・ ポスター掲示（TA、外国語教育研究センター副手） ・ パンフレット配布（TA、日本語教育系科目の授業担当者） ・ SA 希望者取りまとめ（TA）
	SA 登録手続き （外国語教育研究センター、日本語日本文学科教員） <ul style="list-style-type: none"> * 希望者がSAとして活動できるかどうかの判断は日本語日本文学科教員が行う。（2012年度現在、文学部日本語日本文学科の村野良子教授） * SAとして活動できると判断された学生には上記教員が推薦状を作成する。 * 推薦状に基づいて外国語教育研究センターで会議が行われ、承認されればSAとして登録される。
	ペア決め （外国語教育研究センター副手、TA） 顔合わせの会 （【図1】の5者と上述の教員） <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア発表 ・ 初回SAレッスン日の調整
7	SA 募集 （4月時と同じ） <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内告知のみ
	SA 反省会 （TA、SA、外国語教育研究センター副手、日本語日本文学科教員、担当教員）

9	SA 登録手続き (4月時と同じ)
	顔合わせの会 (4月時と同じ) <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア発表 ・ 初回SA レッスン日の調整
1	SA 反省会 (7月時と同じ)
2	継続登録希望者確認 (TA、外国語教育研究センター副手)

【図2】 募集ポスター (左) とパンフレット (右)

日本語SA募集

SA??
 S : Student
 A : Assistant
 (スタンディントアシスタント)

何ををするの?

留学生の日本語学習サポートしてあげませんか?
 専任助手や国際教育研究センター、留学生の日本語学習支援センターに関するSA募集しています。

【応募条件】以下のすべてを条件を満たす方
 ① 大学卒業後2年以上経った外国人(在留資格に限りなく)で日本語に堪能な方
 ② 1月～6月の第一週の中で登録期間のある方
 ③ かつ外語能力が優れている方
 ※応募は2009年～OK! ※外語能力が不明! ※時給 1,000円

【クラス内】では、担当教員の指示のもと、インチューニ練習のパートナーをしたり、発表練習のサポートをしたり、ディスカッションに参加したりします。
 【クラス外】では、担当教員にアドバイスをもらい、留学生の口頭練習のパートナーをしたり、大学の道や生活サポートしたり、質問に答えます。
 【クラス外】活動は、基本的に曜日固定1日約40分で、外国語教育研究センター専任助手の外国語コミュニケーションルームで行っています。

留学生の質問…答えられるかも心配…

その中で、先輩SAさん達も、みんな最初は心配していました。でも、大丈夫。その中で答えられるようになります。担当教員が報告書の高度な情報メールで答えたり、考え方のアドバイスもします。すでに訂正しなければならぬようなミスがあった場合は、担当教員が日本語クラスで留学生にあらかじめ、ちゃんと訂正することもできます。それに、留学生もSAさんで忙しかってしまいますから、100%答えられなくてもいい関係性がすでに築けるんじゃないと思います。

準備がなかったばかりで定額がスナックが覚めるかも心配いし…

スナックには日本語登録に申請してもらっています。
 SAは大学から総合的な支援(お礼)です。そのため、活動前に登録が必要となります。
 登録まで1ヶ月程度かかります。登録してから予定を伺いますので、興味がある方はぜひ早急にご連絡して、専任助手のクラス内ではお礼のメールを下さいます。留学生の人数や学期間のマチュアグによつては、希望してもクラス外SAの担当にならない場合もあります。

興味を持ってください! pyhoo@jp (EJOME 外国語アシスタント) まで

SA 募集

— 留学生の日本語学習をサポートしてみませんか? —

学習院大学外国語教育研究センターでは、平成24年4月より留学生の日本語学習の支援をしていただくSAを募集します。

SAとは?
 SAとは、「Student Assistant(スタンディントアシスタント)」を指します。

何をやるの?
 SAは、留学生の日本語学習に関して、担当教員の指示・アドバイスのもと、個別のサポートを行います。
 (例)日本語授業での学習活動のサポート
 → 会話や発表・インチューニの練習(パートナー) 担当以外の日本語に関する学習サポート
 → 口頭練習(パートナー)、作文の直し、漢字学習のサポート、履修・課題のチェックや協力、日本語に関する期間への回答

<募集要項>

活動内容	留学生を対象に、外国語教育研究センターが提供する日本語授業での学習活動や、その他日本語に関する学習・活動、個別・教育的な支援を行う。
募集対象	以下のすべての条件を満たす方 ① 大学卒業後日本語日本文学科の日本語教育に関する授業を1コマ以上履修しているかまたは履修したことがある方。 ② 国際交流に興味がある方 ③ 1月～6月の1週～5週の中で登録期間のある方。 クラス時間外の活動は、原則1日1回1時間以内で1学期間継続して活動でき方 ※週1コマ(約30分)～OK! ※外語能力が不明!
時給	1,000円
申し込み方法	興味のある方は pyhoo@jp (日本文2 国際交流アシスタント) までご連絡ください。

平成24年4月1日
 外国語教育研究センター

2.3. SA 制度の改善内容

2011年度までの改善方法は【表3】の通り。

【表3】SA 制度の問題点と改善内容

問題点とその要因	改善内容
● <u>SA レッスン開始日が遅い。(授業開始後6週以上経ってしまう)</u>	⇒ペア決めを3週目に行う。 ⇒顔合わせ会でペアを発表して、初回活動日をその場で決めてもらう。
● <u>留学生がSA レッスンの日時を頻繁に変更したりキャンセルしたりして困る。</u>	⇒SA レッスンの趣旨の理解促進のため、SA レッスンの規約（日本語・英語・フランス語）を作成し、留学生とSA の双方に配布する。 ⇒担当教員はSA レッスンを活かせる課題を出す。
● <u>クラス外SA 活動（現SA レッスン）で留学生が集中して勉強できない。</u>	⇒活動の場を、日常の学生生活の場から離す。 ⇒外国語教育研究センター横のコミュニケーションルーム使用する。 ⇒コミュニケーションルームが勉強の場であることを意識させる。
● <u>SA の悩みや質問がタイムリーに解決されない。</u>	⇒連絡が迅速に取れるようメールを活用。 ⇒メーリングリストで、共有すべき情報を配信する。 ⇒活動日誌を紙媒体から電子媒体（Word File 形式）に変更した。 ⇒活動日誌はメールにて提出。即フィードバックする。

3. 日本語クラスと連携したSA 活動の実践例

2012年度は水曜4限日本語C中級（以下、「中級発表」）と金曜2限日本語C中級（以下、「中級ニュース」）のクラスで、クラス内SAとSAレッスンの両方を利用した。火曜5限日本語C初級（以下、「初級作文」）と金曜1限日本語C初級（以下、「初級読解」）ではSAレッスンのみ利用した。それぞれの日本語

クラスでの実践例を以下に報告する。

3.1. 中級発表クラスにおける実践例

中級発表クラスでは、留学生がそれぞれ自身の興味に合わせてテーマを決め、日本人（テーマによっては日本人だけでなくてもよい）にインタビューをし、結果を分析、発表して、レポートにまとめた。SA は以下のような活動を行った。

〈SA の活動内容〉

- a. 留学生が作成したインタビューシートの質問の文言調整（クラス内活動）
- b. インタビューの相手になる。（クラス内活動・SA レッスン）
- c. 発表原稿作成、及び手直しのサポート（クラス内活動・SA レッスン）
- d. 発表、質疑応答の練習（クラス内活動・SA レッスン）
- e. 発表後の質疑応答への参加、コメントシート記入（クラス内活動）

a から d の活動を行う際、SA には文法的に正しくても、質問の文言を聞いた相手が受ける印象や伝えたいことが的確に表せているかを確認するようにアドバイスした。e の活動に対しては、思ったことをできるだけ率直に記入するよう促した。

3.2. 中級ニュースクラスにおける実践例

中級ニュースクラスでは、テレビニュースを生教材として使い、聴解と意見交換を行った。SA は以下のような活動を行った。

〈SA の活動内容〉

- a. ニュース視聴後のグループディスカッション参加（クラス内活動）
- b. 課題シート作成のサポート（SA レッスン）

ニュースの聴解にはかなりの差があったので、ニュースの内容理解を促進するトピックや、概要がわかれば意見交換ができるトピックを適宜設け、留学生と SA ができるだけ対等な立場でできる活動を行った

a の活動は、教員が配布するシートに沿って行った。SA には、ただ意見を言うだけではなく、すぐに意見が言える学生と言えない学生に配慮すること、う

まく意見を引き出すような質問をすること、適宜、日本語のアドバイスをすることなどを伝えた。配布するシートには、SA が留学生から教えてもらわなければわからないような質問を意図的に入れた。

b の活動に関しては、ペアの SA がそのニュースを知らない場合にはまずどんなニュースを見たのか留学生が説明するところから始め、クラスで行った意見交換を再度行うよう指導した。また、宿題として重要語彙を使っての短文作成を課した。

3.3. 初級作文クラス、初級読解クラスにおける実践例

初級作文クラス、初級読解クラスでは、SA レッスンのみを利用し、SA は以下のような活動を行った。

〈SA の活動内容〉

- a. 留学生の作文の文言調整（初級作文クラス）
- b. 課題シート作成のサポート（初級読解クラス）

初級作文クラスでは、作文添削の際、直しが必要な部分に下線のみを書き入れ返却した。留学生にはなぜ下線がひかれたのかを考え、まず自分で訂正するよう指導し、訂正できなかった部分のうち、意味の確認を伴うものは SA レッスンで質問するよう指導した。文法項目を一から説明しなければならなくなりそうなものは、SA と運用練習ができるよう準備しておいた。SA レッスンでは、チェックを受けた作文について、留学生が内容や意図を SA に説明し、SA と表現の仕方を一緒に考えるよう双方に指導した。余裕のある留学生には、直す作業にとどまらず、話が広がるよう担当教員が質問シートを準備して、SA レッスン後に提出するよう指導した。

語彙や既習文法が少ない留学生には、SA と語彙や文法項目の運用練習ができるシートを使用した。

4. SA 活動の評価

SA 活動に参加した SA と留学生に対して、SA 活動に関するアンケートを自由記述式、選択式と自由記述式併用で行った。2011 年度と 2012 年度前期まで

の有効回答数は SA がのべ 19、留学生はのべ 10 であった。回答の中には似たような意見もあるため、SA の意見と留学生の意見を以下にまとめる。質問項目は【資料 1】SA 活動後アンケート (留学生用) の質問項目と【資料 2】SA 活動後アンケートの質問項目の通り。

4.1. 留学生のアンケート結果

- ・ 誤用訂正が受けられる。
- ・ フィードバックが多い。
- ・ 話題の回避がない。(例：時事問題、社会問題等)
- ・ 個別対応であることによる対応の柔軟性
- ・ 学生である SA との親和性の高さ
- ・ SA と教員との連携

留学生のアンケートには「友達はしてくれないことを、SA はしてくれる」「SA は忍耐強い」などの、友人と SA を比べる記述が目立った。ここから、日本語母語話者の友人とのコミュニケーションと SA レッスンとは違う意味を持っていることを、留学生が認識していることがわかる。また、SA が的確に答えられなかった場合でも、「SA はすぐにわからなくても、熱心で、調べてくれる」「SA がわからない時、後で先生が教えてくれた」などのコメントから留学生は否定的にとらえていないことがわかった。

4.2. SA のアンケート結果、及び SA 活動日誌のコメントまとめ

<良かった、できたと回答している記述のまとめ>

- ・ 多様な意見や視点への気づき
- ・ 日本語学習者に対する日本語使用時の配慮
- ・ 専門科目 (日本語教育、言語学等) に対する意欲の向上
- ・ 教員からのサポート
- ・ 留学生からの感謝

<大変だった、困った、悩んだ等と回答している記述のまとめ>

- ・ 専門知識や社会的知識の不足
- ・ 教えることの難しさ
- ・ 留学生のやる気の波

<改善してほしい点に関する記述のまとめ>

- ・ 教員に直接アドバイスをもらう機会の増加
- ・ SA レッスンに対する留学生の率直な意見を知る機会
- ・ SA レッスン時に適宜追加利用できる教材の整備
- ・ SA レッスンの際の活動時間の明確化

<その他の回答のまとめ>

- ・ 日常生活での日本語使用の意識化
- ・ 自文化と自文化に対する意識や知識に対する内省
- ・ 自身の外国語使用との比較

SA のアンケートからは、SA 活動を通じて、自文化や日本語について考え直す機会となったことがわかる。SA にとって留学生との接触は、日本語教育専門科目の学習にも良い影響を与えていると言える。

5. まとめと今後の課題

多様な背景と習熟度の差は外国語教育研究センター日本語クラスの持つ宿命的な課題である。この問題に対応すべく導入された日本語 SA 制度は、5年間の実践と改善を経て、極めて有効な対応策であることが示されている。

本稿では、外国語教育研究センターで採用している日本語 SA 制度の運用と、筆者のクラスでの SA 活動について実践例を報告した。留学生と SA に行ったアンケート調査の結果を踏まえて今後の改善点について述べたい。

<今後の改善点>

1. SA レッスンの質の向上
2. SA の成長のサポート

まず、SA レッソンの質の向上のためには、SA の専門知識や対応力の質の向上が望まれることはいうまでもない。しかし、留学生が SA の専門知識の未熟さに対して理解を示し、SA の努力を好意的に評価していることから、まずは SA レッスンで行う内容と SA レッスン後のフォローにより、SA の専門性を高めていく支援が必要だと思われる。

担当教員は、授業内外を問わず、課題を出す際には SA と取り組むことを前提とした課題、SA と協力しなければ完成できない課題を出す工夫が必要であろう。また、SA と留学生は、支援する側と支援を受ける側という関係に陥りやすいが、対等な立場での学び合いの意義³を考慮しながら、留学生と SA が共に取り組むのに適した課題と、その後のサポートについて今後も検討を続けたい。

次に、SA の成長のサポートである。SA の成長を専門知識という点から考えると、日本語教育系の専門科目の学習は非常に重要である。学んだ専門知識の実践の場として SA 活動を捉え、さらに次の学びに繋がるようにするためには、日本語日本文学科との連携が必要であろう。

以上の2点を改善することで、留学生と SA にとって日本語 SA 制度を学習院大学の外国語教育研究センターにおける外国語 (第二言語) 学習支援の方法としてさらに有効なものにしていきたい。

<資料>

【資料 1】 SA 活動後アンケート (留学生用) の質問項目

下の質問を読んで、あなたの考えに当てはまる番号に○をつけて、その理由を書いてください。理由は、日本語でも英語でもいいです。

- 1) SA レッスンで、どんなことをしましたか。それは役に立ったと思いますか。どうして、そう思いますか。したことを思い出して、下にそれぞれ書いてください。

³ 渡辺・上田・宮副 (2004) では日本語クラス外での活動において同世代の日本語話者と接触することは、留学生にとって学習意欲や学習面に良い影響があるだけでなく、異文化理解の効果も期待できるとしている。さらに藤川・桑野・大江 (2006) では、対等な立場での活動を「協学」と捉え、「協学」が進むにつれて、異文化理解の促進が進み、学習者は日本語を使ってきたことに意識が向くようになるという効果が期待できるとしている。

したこと： _____

例) 発表の練習、会話の練習、文法の質問、作文の質問など。

1 とてもそう思う 2 まあまあそう思う 3 どちらでもない

4 あまりそう思わない 5 全然そう思わない

(理由)

2) これからもSA活動を続けたいと思いますか。どうして、そう思いますか。

(帰国する人は、もしまだ学習院で勉強するんだったら…を考えて教えてください。)

1 とてもそう思う 2 まあまあそう思う 3 どちらでもない

4 あまりそう思わない 5 全然そう思わない

(理由)

3) その他、SA活動についての感想や伝えたいこと、直してほしいことがあったら何でも自由に書いてください。英語でも日本語でもいいです。

【資料2】SA活動後アンケートの質問項目

1. 現在、SAと留学生のペアは外国語センターとTAが決めていますが、活動期間中、ペアを変えてほしいと思ったことはありますか。理由も併せて書いて下さい。
2. 現在、SA活動の基本時間は1時間です。1時間という長さについてどう思いますか。
a.長い b.短い c.その他 _____
3. 現在、SA活動の場所を基本的に「外国語教育センター横のコミュニケーションルーム」にしていますが、この場所についてどう思いますか。
a.いい b.わるい c.どちらともいえない
4. 現在、SA活動の日時の変更はSAと留学生との直接交渉になっています。この点についてどう思いますか。
a.いい b.わるい c.どちらともいえない
5. 現在、SA活動で行う内容について、講師からアドバイスを受けるということになっています。この点についてどう思いますか。

- 1) 活動開始前の指示
 - a. わかりやすく、困らない
 - b. 指示はわかるが、方法などで困ったことがある
 - c. 指示がわからない

b/c を選んだ方は、困った点やわかりにくかった点、こうしてほしいかという要望などを覚えている範囲で構いませんので、具体的に書いて下さい。
- 2) 活動開始後の指示
 - a. わかりやすく、困らない
 - b. 指示はわかるが、方法などで困ったことがある
 - c. 指示がわからない

b/c を選んだ方は、困った点やわかりにくかった点、こうしてほしいかという要望などを覚えている範囲で構いませんので、具体的に書いて下さい。
6. 現在、SA 活動の報告は ML で行っています。この点についてどう思いますか。(ML が導入される前は外国語センターへの紙媒体で提出していました。)
 - a. 現状のままでよい。
 - b. 現状のシステムでいいが、改善してほしい点がある。
 - c. ML 以外のシステムの方がよい。
7. SA 活動の活動日誌の以下の点についてどう思いますか。
 - 1) 活動内容は書きやすいですか。
 - a. 書きやすい
 - b. 書きにくい ⇒ A. 何を書いたらいいのかわかりにくい
B. 理由はわからないが書きにくい
C. 書きたいこと
(_____ など) はあるがうまく書けない。
 - 2) 活動日誌へのコメントはどうですか。
 - a. コメントが多い。読むのは大変だが、必要なことは書いてあるから仕方ない。
 - b. コメントが多い。読むのは大変なのに、必要なことが書いてない。
例えば _____
 - c. ちょうどいい
 - d. コメントが少ない。困っていることや疑問が解消されない。

例えば

e. コメントをあまり読んでいない。

8. SA 活動について、率直な意見を書いて下さい。成績や今後のペア決めで不利になることは決してありません。
- 1) 「SA 活動をしてよかった！！」と思ったことはありますか。どんな時ですか。
- 2) 「SA 活動なんて、もう無理…」と思ったことはありますか。どうしてですか。その気持ちは何かのきっかけで変わると思いませんか。または、何かをきっかけに変わりましたか。
- 3) SA 活動で「あ、どうしよう」と思ったことや「誰かに聞きたいな」と思ったことはありますか。次の例を参考に思い出して、具体的に書いて下さい。
- 例) ～の説明で困った。(文法：やりもらい・受身・日本語能力試験の～、語彙、敬語など)
- ～を理解できなくて困った。(留学生の言いたいことがわからない、話がかみ合わないなど)
- ～がわからなくて困った。(練習の仕方、調べ方など)
- 4) SA 活動で改善してほしいことはありますか。次の例を参考に何でも構いませんので、思いつくことを書いて下さい。
- 例) もっと～に関するサポートが欲しい。
- ～が大変なので、…などがあればよかった。
9. 最後に、意見・感想・不満など何でも構いませんので、何かあればお願いします。

<参考文献>

赤堀 由紀子(2001)「日本語クラスにおけるティーチング・アシスタントの活用 -学内日本語教員養成コースと留学生日本語クラスの連携の試み-」『京都橘女子大学外国語教育研究センター紀要』第10号, pp.5-14

藤川美穂・桑野幸子・大江淳子(2006)「大学協定校間における短期日本語研修 -「協学」を実践するための設計・評価・改善-」WEB版『日本語教育 実践研究フォーラム報告』<http://www.nkg.or.jp/kenkyu/Forumhoukoku/fujikawa.pdf>

石井 恵理子・藤川 美穂・谷 啓子(2012)「異文化間協働活動を中心とした日本

留学生の日本語学習をサポートする SA (Student Assistant) に関する実践報告 (大江淳子)

語教育実習における実習生の意識変容」『東京女子大学比較文化研究所紀要』
第 73 号, pp.43-73

ネウストプニー, J.V. (2002) 「インターアクションと日本語教育 - 今何が求め
られているか」『日本語教育』112 号, pp.1-14

渡辺民江・上田美紀・宮副ウォン裕子(2004) 「カンバセーション・パートナー
活動の効果と問題点 - 留学生、教員を対象とした活動評価の調査から - 」留
学生教育学会『留学生教育』第 9 号、pp.157-167

Thomson, Chihiro Kinoshita (1998) “Junior Teacher Internship: Promoting
cooperative interaction and learner autonomy in foreign language class-
rooms.” Foreign Language Annals. Vol. 31. Winter

